

みやぎの

11月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.213 2024.11

紹介内容 (10/1~10/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 仙台農改：仙台産いちごのスイーツカフェがグランドオープンしました
 - 気仙沼農改：サンフレッシュ小泉農園が「みやぎ園芸大賞」を受賞しました
 - 登米農改：米川地区担い手法人設立に向けた発起人会が開催されました
 - 石巻農改：「初心者歓迎！みんなの農業機械セミナー」を開催しました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 2
 - 登米農改：みやぎ農業未来塾（Aコース）を開催しました
 - 大河原農改：みやぎ農業未来塾「先進農業経営体相互研修会」を開催しました
 - 栗原農改：先進農業体験学習が無事終わりました
 - 仙台農改：農業大学校の令和6年度先進農業体験学習の終了式が行われました
 - 登米農改：宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました
 - 亘理農改：農業大学校の先進農業体験学習終了式が開催されました
 - 石巻農改：宮城県農業大学校生 33日間の先進農家体験学習無事終える！
 - 石巻農改：みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座 Part2」を開催しました
 - 石巻農改：令和6年度石巻農業士会・石巻地区4Hクラブ交流会

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 美里農改：スマート農機とほ場管理システムの活用により水田農業を「見える化」！
 - 農業振興課：令和6年度宮城県田んぼダム・アグリテックシンポジウムを開催しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 6
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなねぎ部会で視察研修会が開催されました
 - 石巻農改：北限のオリーブ初搾り！
 - 気仙沼農改：南三陸大粒ぶどう協議会による「しおかせ葡萄」の販売会が開催されました
 - 亘理農改：ゆきな栽培講習会が開催されました
 - 登米農改：秋まき直播たまねぎの栽培実証が行われました
 - 亘理農改：JA名取岩沼ハウス胡瓜部会 促成胡瓜栽培講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：令和6年産 枝もの用クロマツの収穫が始まりました
 - 気仙沼農改：気仙沼合庁地場産品直売会に（株）サンフレッシュ小泉農園、南三陸大粒ぶどう協議会が出店しました
 - 登米農改：JAみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会・農業講習会が開催されました！

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 気仙沼農改：「港町玄米」の収穫が始まりました
 - 気仙沼農改：南三陸米図画コンクール表彰式と新米試食会が開催されました

- 大河原農改：WCS用稲「リーフスター」を収穫しました
- 栗原農改：水稲品種「にじのきらめき」現地検討会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・10
 - 大崎農改：今年初！色麻町特産えごまの収穫が行われました
 - 気仙沼農改：酒米サポーターズクラブの稲刈りが行われました
 - 亘理農改：「なとり・ぐるっと親子講座 稲刈体験」が開催されました
 - 亘理農改：「地域計画策定に係る情報交換会」を開催しました
 - 栗原農改：栗原市金成有壁地区で稲刈り体験が開催されました
 - 大崎農改：色麻町えごま品種比較試験の現地検討を行いました
 - 大崎農改：加美町の若手農業者による地域活性化イベント「カミヤングイチ」が開催されました
 - 気仙沼農改：地域計画策定に係る関係機関の検討会が開催されました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・12
 - 登米農改：秋晴れの下、「グリーンな栽培体系」について紹介しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○仙台産いちごのスイーツカフェがグランドオープンしました

令和6年10月3日

仙台農業改良普及センター



株式会社ベリープラネット（仙台市若林区、代表取締役 深沼陽一氏）は、県事業を活用し、仙台市若林区上飯田地区の仙台ハーベストビレッジ※内に、新たにいちごスイーツのカフェをオープンしました。

ベリープラネットは、令和4年から仙台ハーベストビレッジの隣接したハウスでいちご生産を開始しており、いちごの栽培に関しては、山元町で長年培った技術と実績から品質が高く、生産したいちごは県内や首都圏などの多くのパティシエや料理人から好評を得ています。

今回開業したカフェでは、これまで既存店舗で販売していた「いちご」やいちごの和スイーツに加えパイなど洋風スイーツのほか、新たに山元町で生産にチャレンジした「さつまいも」を使用したスイーツも提供し、地域の農産物を味わっていただき、農業の魅力を発信していくこととしています。

普及センターでは、各種の補助事業の活用や専門家派遣などを組み合わせながら、6次産業化の取組を引き続き支援してまいります。

※ 仙台ハーベストビレッジ

仙台市東部地区の農業復興振興を目的とした「農と食のフロンティアプロジェクト」により民間が主体となって農産物販売等の施設として整備したものです。

○サンフレッシュ小泉農園が「みやぎ園芸大賞」を受賞しました

令和6年10月8日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年8月30日に、J Aビル宮城にて令和6年度宮城県園芸振興大会が開催され、当管内の農業法人である株式会社サンフレッシュ小泉農園が「みやぎ園芸大賞」を受賞しました。

「みやぎ園芸大賞」とは、平成30年度から始まった宮城県独自の表彰制度で、本県園芸産出額の向上に寄与する取組を称えるものです。

受賞された株式会社サンフレッシュ小泉農園の今野代表取締役は、「トマトの栽培を始め、今年で10期目となる。GLOBALG.A.P 認証取得による生産・労務管理の改善、太陽光発電システム導入による環境負荷低減等、これまでの取組が評価されたものだと思う。今後は課題である夏季の高温対策に取り組み、収量向上を目指し努力していきたい。」と受賞者あいさつで話されました。

普及センターでは、今後も園芸産出額倍増に向けて気仙沼地域の園芸振興を推進してまいります。

○米川地区担い手法人設立に向けた発起人会が開催されました

令和6年10月9日

登米農業改良普及センター



登米市東和町の米川地区は、平成30年に地域営農構想を策定し、令和6年9月に事業採択された農地整備事業地区であり、事業目標年度である令和16年度に向けて、担い手1法人に農地を集積・集約化し、整備農地の一部に、新たに高収益作物を作付けする計画としています。

令和6年9月30日（月）に、米川地区担い手による第8回発起人会が開催され、関係機関も含めて6人が出席しました。発起人は月例で開催されており、前回までに設立予定の担い手法人の運営イメージや設立手順等について広範な検討・意見出しを行ってきており、今回は、前回までの検討内容を改良区が文面化した資料について確認を行いました。次回に向けては、副会長が事業目論見書形式にまとめ、目指す法人像を明確化して共有することとしました。さらに、法人の方向性が定まってきたことから、先進的な法人経営体への視察研修の実施も決まりました。

高収益作物の試作については、栽培開始から1年経過したことから、試作を担当した副会長と一部調査協力した普及センターとで試作結果を報告し、発起人会で検討することとしました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、米川地区地域営農構想の実現に向けて支援してまいります。

○「初心者歓迎！みんなの農業機械セミナー」を開催しました

令和6年10月25日

石巻農業改良普及センター



令和6年10月18日に石巻農業改良普及センター主催で「初心者歓迎！みんなの農業機械セミナー」を開催しました。

本研修会は、宮城県女性農業者活躍支援事業の一環として、次代を担う女性農業者を対象に、農業全般に関する知識習得等を目的として毎年さまざまなテーマで開催しています。今年度は、農林水産省「農業女子プロジェクト」参画企業であり、女性の声を形にした農機具を販売している株式会社キセキ東北から講師を招き、トラクターや耕運機、斜面草刈機の安全な使い方やメンテナンス方法等について、実習も交えて講義いただきました。

法人等従業員の方や新規就農者のほか、新規就農希望者等、14人の参加があり、大盛況のうちに終了しました。参加者からは、「農業機械の運転は初めてだったが、丁寧に教えていただき分かりやすかった」「楽しく体験ができ、就農への夢が広がった」といった感想をいただきました。

石巻農業改良普及センターでは、今後も女性農業者等を応援する様々なイベントやセミナーを企画していきますので、ぜひご参加ください。

②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾(Aコース)を開催しました

令和6年10月3日

登米農業改良普及センター



令和6年9月13日(金)にみやぎ農業未来塾(Aコース)を開催しました。本研修は、管内の先進経営体の経営事例を視察し、個々の知識習得に役立てることを目的として開催しており、地域の農業後継者で

ある4Hクラブ員や宮城県農業大学校の学生など16人が参加しました。また、本研修は登米市農業士会の経営向上研修会も兼ねており、管内の農業士が相互に経営状況を視察することで会員個々の経営発展を図るものでもあります。

当日は農業士の3人、株式会社エス・ティエフの代表取締役の佐藤瑛彦氏、TOMOTOファーム代表社員及び農業士会会長の大立目忠徳氏、株式会社たいら代表取締役の千葉翔太氏のほ場を訪問しました。各農業士からそれぞれの経営の概要や理念の説明を受け、農業経営に取り組む姿を学びました。参加者は視察先の経営の特徴や工夫している部分について互いに意見を交わしていました。また、農大生は質問を通じて研修先や自家と視察先との技術的な違いや、他分野の経営内容について理解を深め、非常に有意義な研修となりました。

普及センターでは、世代を超えた農業者の交流について引き続き支援していきます。

○みやぎ農業未来塾「先進農業経営体相互研修会」を開催しました

令和6年10月15日

大河原農業改良普及センター



令和6年10月4日に管内で先進農業体験学習を行っている農業大学校生を対象に、みやぎ農業未来塾「先進農業経営体相互研修会」を行いました。

午前は受け入れ農家を回り、それぞれ学生に自分の受け入れ先で学んだことについて説明してもらいました。開始式のときには少し緊張していた農大生でしたが、今回の研修では自分が今まで学んできたことについて自信をもって説明する様子が見られました。

午後はOEM受託など地域の6次化について重要な役割を担う白石市の「みのりファクトリー」を視察しました。「みのりファクトリー」では、加工施設の見学やHACCPの取り組みについて学び、今後の学習に役立てることができるようメモを取りながら講師の話に真剣に耳を傾けていました。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携した地域の担い手の確保・育成に向けた取組を進めていきます。

○先進農業体験学習が無事終わりました
令和6年10月16日
栗原農業改良普及センター



9月9日から始まった宮城県農業大学校の33日間の先進農業体験学習が無事終了しました。この体験学習は、技術の向上のみならず、学生が人や地域とのつながりを作ることを目的とし、先進農業者のもとで行われています。今年度、栗原管内では2名の学生が2つの農業法人のもとで研修しました。

10月11日に開催した終了式では、「少しでも研修先の力になれるように努力した」「機械の点検整備など実践的な内容を学ぶことができた」など一人ずつ感想を述べました。受入れ側からは「積極的に取り組んでくれた」「礼儀正しい」と評価する一方で、「目的を明確にして研修に臨んでほしい」といった意見も聞かれました。

○農業大学校の令和6年度先進農業体験学習の終了式が行われました
令和6年10月17日
仙台農業改良普及センター



9月9日（月）から10月11日（金）までの33日間に亘る農業大学校の先進農業体験学習が無事に終了しました。

研修最終日は普及センターで終了式が行われ、学生1人1人から受け入れ農家へお礼の言葉が伝えられました。学生からは感謝の言葉だけでなく「他の法人や商談の場などにも同行させていただき、視野が広がった」、「勉強になっただけでなく、雨の日の作業などもとても楽しかった」といった、研修の充実ぶりが伝わるエピソードもありました。

また受け入れ農家の皆様からも、「忙しい時期だったが、よく働いてくれた」、「将来法人を設立したいとのことだったので、いつか自分を超えてほしい」といった、学生に対する温かい労いの言葉や、励ましの言

葉もいただきました。

学生の皆さんには、体験学習での経験や縁を大事にし、将来の目標に向かって勉学に励んでいただきたいと思います。

○宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました
令和6年10月21日
登米農業改良普及センター



令和6年9月9日から10月11日までの33日間、宮城県農業大学校の先進農業体験学習が実施されました。これは、同校の1年生が先進的な経営を営む農業者のもとで技術や経営のノウハウを学ぶとともに農村生活を体験するもので、当管内では登米市出身の学生3人が学習に取り組みました。

体験学習実施前はどことなく不安げな表情をしていた学生でしたが、終了式には、地域の方々や同業者・取引先とのつながりの中で、様々な人との交流も体験し、充実した表情が伺えました。

学習を通して学生からは、「コンバインの操作や、堆肥づくりも体験できてうれしかった。受入農家に感謝している。」「家畜市場や角切作業も体験できた。特に会社内の農大生の先輩にお世話になり感謝している。」「農業の現場に出た時に役に立つ事がたくさん体験できた。」「肥育の技術、給餌、粃殻運搬など、実家では体験した事がないことをたくさん学ぶ事ができた。優しく教えていただき安心できた。」などの感想が述べられました。

また、受入農家の方々からは、「暑い中、慣れない環境での生活や、仕事は大変だったと思う。お疲れ様」との労いの声や、「将来は様々な選択肢があり、自分の経験や勉強によって考え方が変化し、形づくられると思うので、これからの生き方を考える基礎としてほしい。」といった励ましの声をかけていただきました。

今後も、この体験学習の経験を活かし将来の目標に向かって勉学に励んでほしいと願います。

○農業大学校の先進農業体験学習終了式が開催されました

令和6年10月22日

亘理農業改良普及センター



令和6年10月11日、亘理普及センターを会場として、農業大学校における先進農業体験学習の終了式が開催されました。本学習は農業大学校1年生が、先進的な農業経営を実践している農業者のもとで、33日間、農業技術や経営について学ぶものです。当普及センター管内では、水田経営学部、園芸学部及びアグリビジネス学部の9人の学生が、土地利用型や園芸経営をされている9経営体から指導を受けました。

開始式では、緊張した面持ちで式に挑んでいた学生達でしたが、終了式では達成感に満ちた様子が伺えました。学生からは「インターネットでは学ぶことのできない貴重な勉強をさせていただき、ありがとうございました。」等、受入経営体にお礼の言葉が述べられました。受入経営体からも「最後までよく頑張りました。この経験を今後活かして欲しい。」等の励ましの言葉がありました。

普及センターでは、今後も農業大学校等と連携して担い手育成を行ってまいります。

○宮城県農業大学校生33日間の先進農家体験学習無事終了！

令和6年10月29日

石巻農業改良普及センター



令和6年10月11日、石巻合同庁舎において、令和6年度宮城県農業大学校先進農家体験学習終了式が開催されました。

今年度は3名の農業大学校生が、石巻市及び東松島市の農業法人で、33日間の研修を受けました。

終了式では、学生から研修先への御礼の言葉として、「毎日忙しかった、でも本当に実になった」、「仕事の内容だけではなく、あいさつすること、声がけの

大切さも改めて学んだ」など、研修で得たことや、「従業員の方々にもあたたかく迎えてもらい、あっという間の33日間だった。本当にありがとうございました」と心からの感謝の言葉がありました。

受入した法人の代表者からは「常にメモを取ったり、質問したり等、積極的な姿勢が見られ、こちらも学ばせてもらった」、「これを縁に、今後も気軽に来て、学びを広げて行って欲しい」との声が聞かれました。

当普及センターでは、今後も次世代を担う人材育成を支援して参ります。

○みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座Part2」を開催しました

令和6年10月30日

石巻農業改良普及センター



令和6年10月7日、令和6年度みやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座」の第2回目を開催しました。

本講座は、高校生を対象に地域農業の優良事例を紹介し、進路選択の参考と学習意欲の向上を図る目的で開催したものです。

今回は、石巻北高校食農系列2年生7人を対象に、施設園芸型農業法人の有限会社サントマト石巻を訪問し、同社代表取締役から大型園芸施設での栽培や自社ブランドの高糖度トマトの販売戦略等について説明を受け、葉かきなどの作業の様子を見学しました。

生徒らは1haのハウスの広さに驚き、さらに、生産されたトマトの8割が地元の石巻青果に出荷されるほか、仙台、秋田、盛岡など東北各県に出荷されていることを聞いて、メモをとる姿が見られました。

当普及センターでは、本県農業を担う若手農業者の確保に向けて、引き続きこのような機会を企画してまいります。

○令和6年度石巻農業士会・石巻地区4Hクラブ交流会

令和6年10月30日

石巻農業改良普及センター



令和6年10月8日、令和6年度石巻農業士会、石巻地区4Hクラブ連絡協議会の交流会が開催されました。

この交流会はコロナ禍でしばらく開催されていませんでしたが、昨年度から再開しています。

農業士14人、4Hクラブ員6人のほか、石巻管内で今年度の先進農業体験学習を行っている農大生3人も参加し、和気あいあいとした和やかな親交の場となりました。

交流会では、農業士と4Hクラブ員の情報・意見交換が活発に行われ、ゲストとして参加した農大生にとっては大先輩である農業士の方々や年齢の近い4Hクラブ員との交流は今後の進路の選択やご縁をいただいた有意義な時間になったと思われま

す。このような交流を機に更なる活動の活性化と発展につながるよう、今後も農業士と青年農業者の活動を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○スマート農機とほ場管理システムの活用により水田農業を「見える化」!

令和6年10月22日
美里農業改良普及センター



清々しい秋晴れの空の下で、有機栽培米の刈取が行われました。こちらのほ場では、県庁農業振興課と連携して、ほ場管理システム「ザルビオ フィールドマネージャー」を活用した可変施肥を実施したほか、移植後には、遠隔で推移の確認や水の出し入れが可能な「ファーモ 水位センサーと給水バルブ」、水田の除草作業の負担を軽減する「アイガモロボ」を投入するなどのスマート農機を活用して栽培に取り組んできました。

刈取作業はヤンマーアグリジャパンの協力により、作業と連動してほ場ごとの収穫量やほ場内の収量のばらつきが「見える化」する、収量マッピングのためのデータ取得を同時に行えるコンバインによって進められました。さらに、このコンバインは外周部分を刈り取ることで、その後は自動走行が可能となり、運転者の負担軽減を図ることができます。

普及センターでは、様々なスマート農機の実証に参画し、生産者の負担軽減につながる様々な技術の実証や普及に努めていきます。

○令和6年度宮城県田んぼダム・アグリテックシンポジウムを開催しました

令和6年10月31日
農業振興課



令和6年10月25日(金)、加美町のバツハホールにて、宮城県田んぼダム・アグリテックシンポジウムを開催し、農業者や農機メーカー、土地改良事業関係者、その他関係機関など241人にお越しいただきました。

今回のアグリテックシンポジウムは、宮城県田んぼダム実証コンソーシアムが開催する田んぼダムシンポジウムと共催で行い、これまでのセミナーよりも幅広い方々に参加いただきました。

後半のアグリテックの部では、東北農政局からスマ農新法に関する情報提供や、株式会社クボタの瀬尾様から最新のスマート農業技術とほ場整備の重要性について講演いただきました。また、事例として大崎市で行っているアイガモロボを活用した省力的な除草体系を紹介いただいた他、農業革新支援センタ

一からは、普及センターと連携して行っている RTK システムを活用した省力化の現地実証の成果を紹介しました。

その他、講演会場には、農業機械メーカーがスマート農業機器を展示し、参加者が気になる技術について気軽に質問するなど、スマート農業技術の導入に向けて情報収集する姿がみられました。

県では、スマート農業の普及拡大に向けて、アドバイザー派遣による専門的指導や、農業者や企業とのネットワークによる相互の情報発信など、農業者を支援しています。ご興味のある方は、各地域の農業改良普及センターや県農業革新支援センターにお気軽にご相談ください。

④園芸産地の育成・強化支援

○JA新みやぎあさひなねぎ部会で視察研修会が開催されました

令和6年10月1日

仙台農業改良普及センター



令和6年8月23日、JA新みやぎあさひなねぎ部会の視察研修会が開催され、部会員20人が参加しました。

研修は、JA加美よつばねぎ部会の会員のは場を視察し、園主とJAの担当者から産地の概要や「なかにいだねぎ」のブランド化と出荷時期拡大を狙った「囲いねぎ」の生産の取組などについて説明を受けました。

コロナ禍だったため、数年ぶりの現地視察研修会だったこともあり、参加者は久しぶりの他産地の生産者とは場管理や栽培技術、部会の活動などについて積極的に情報交換を行い、有意義な研修となりました。

普及センターでは、JA新みやぎあさひなどと連携しながら、ねぎの生産振興を支援してまいります。

○北限のオリーブ初搾り！

令和6年10月3日

石巻農業改良普及センター



東日本大震災の津波で被災した石巻市沿岸部で、特産化を目指して栽培している「北限のオリーブ」の収穫と搾油が、9月30日から始まりました。

当日は、早朝から手摘みで収穫したオリーブの実を搾油場に搬入し、品質の良い果実のみを搾油するために手選別、その後冷暗室で洗浄、粉碎、遠心分離機にかけて搾油、高品質な製品にするために収穫から搾油までを6時間以内で行っています。

今年初めて搾油されたオリーブオイルは濃いエメラルドグリーンを呈し、風味は青りんごのような爽やかな香りとスパイシーさが感じられるフレッシュな出来上がりとなりました。

販売は10月中旬以降、石巻市内の道の駅等の直売所で予定しております。最高級品のエキストラバージンオイルをぜひお買い求め下さい。

○南三陸大粒ぶどう協議会による「しおかぜ葡萄」の販売会が開催されました

令和6年10月4日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年9月7日、南三陸町の「さんさん商店街」を会場に南三陸大粒ぶどう協議会による「しおかぜ葡萄」の販売会が開催されました。「しおかぜ葡萄」は、南三陸大粒ぶどう協議会で定めている栽培要領や出荷基準に基づいて生産・販売されるぶどうのことで、今回が初の販売会開催となりました。当日は来場者が販売開始時間前から列を作り、協議会員が生産した約500品のシャインマスカット、ピオーネ、安芸クイーンなどの大粒系ぶどうを買い求めていました。用意されたぶどうは全て完売し、大盛況の販売会となりました。

「しおかぜ葡萄」は、町内外の農産物直売所などでも販売されています。まだ生産量が少なく流通量は限られますが、見かけた際には是非御賞味ください。

○ゆきな栽培講習会が開催されました
令和6年10月10日
巨理農業改良普及センター



J Aみやぎ巨理では、秋冬期のゆきなの栽培を勧めています。特に寒くなってから甘味の増すちぢみゆきは直売所、市場向けにも人気があり、安定した需要があります。令和6年8月26日（月）にJ Aみやぎ巨理南部営農センターで「ゆきな栽培講習会」が開催されました。

当普及センターからは、施肥や病害虫防除等について情報提供を行いました。参加者からは、「効果的な除草剤の使い方」や「排水対策」等について質問があり、当普及センターからの助言に加えて、参加者同士で効果的と思われる手法等について意見交換が行われました。

当普及センターでは、秋冬期に人気のゆきなの安定生産を引き続き支援していきます。

○秋まき直播たまねぎの栽培実証が行われました
令和6年10月17日
登米農業改良普及センター



現在たまねぎ栽培は、ほとんどが移植栽培で行われており、育苗期間が2か月程度、育苗本数が2.5万～3.5万本/10aと多いため、多くの育苗時間と資材費がかかることが課題となっています。

この課題を解決するため、(株)久保園芸では、昨年度から試験的にたまねぎの直播栽培に取り組んでいます。降雨の影響もあり、播種日はやや遅れたものの、9月30日に畝立て、直下施肥、溝底播種を同時にできる作業機を用いて播種作業が行われました。作業は一畝当たり（長さ約80m）10分前後で進み、スムーズに作業ができていました。今回播種した玉ねぎは、来年の6月ころに収穫される予定です。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、たまねぎの直播栽培技術の確立に向けて支援を行ってまいります。

○JA名取岩沼ハウス胡瓜部会 促成胡瓜栽培講習会が開催されました
令和6年10月22日
巨理農業改良普及センター



名取岩沼地域は、きゅうりの周年産地となっており、このたび冬春期のきゅうり栽培に向けて、令和6年10月8日（火）に「JA名取岩沼ハウス胡瓜部会 促成胡瓜栽培講習会」が開催されました。

当普及センターからは、昨年からの被害が拡大し、現在栽培されている抑制栽培でも問題となっているタバコナジラミの防除について情報提供を行いました。

タバコナジラミは多発すると防除が困難になることから、これまでに使用してきた薬剤のローテーション散布を発生初期から徹底することや管内で防除効果が高いと生産者から報告があった、気門封鎖剤や還元水あめ等、これまでにあまり使用されてこなかった農薬の使い方のコツ等についてお話ししました。

参加者からは、「多発すると本当にやっかいで防除が出来なかった」「防除に苦慮していたので、参考になる」等のお話がありました。

当普及センターでは、きゅうりの安定生産に向け、また管内での難防除害虫の防除について引き続き支援していきます。

○令和6年産 枝もの用クロマツの収穫が始まりました
令和6年10月24日
気仙沼農業改良普及センター



南三陸町の農業法人「株式会社南三陸 Pine Pro (パインプロ)」で10月21日から令和4年に定植した枝もの用クロマツの収穫が始まりました。

当日は秋晴れの晴天で、心地よい汗をかきながらの収穫作業でした。

枝もの用クロマツは、年末年始の門松、玄関用飾り、生け花などに利用される花材で、1メートル程度の若松、30センチ程度の小松に分けて出荷するため、ほ場で収穫したクロマツは出荷調製作業場に運びこまれ、余計な枝・葉を取り除く調整作業のほか茎の太さや枝の長さで選別する作業が行われます。

1年ぶりに調整・選別作業をするパートの方々は、近くの人と相談し、思い出しながら作業を始めましたが、30分もすると、手慣れた様子で黙々と作業を行い、調整・選別されたクロマツが次々と山となっていきました。今年は約80アールのほ場を収穫する計画で、11月末まで作業が行われます。

事故無く、怪我無く収穫作業が行われるように、普及センターでは適宜巡回しながら支援していきます。

○気仙沼合庁地場産品直売会に(株)サンフレッシュ小泉農園、南三陸大粒ぶどう協議会が出店しました

令和6年10月25日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年10月4日、気仙沼合同庁舎で地場産品直売会が開催され、気仙沼管内の食品事業者や生産者が出店し、地場産品が販売されました。出店者のうち、株式会社サンフレッシュ小泉農園はトマトや「港町玄米」(玄米食専用品種「金のいぶき」)、南三陸大粒ぶどう協議会は協議会員が生産したシャインマスカット等の大粒系ぶどう「しおかぜ葡萄」が販売されました。特に、今年からブランド化された「港町玄米」と「しおかぜ葡萄」に関心を持つ方が多く、味の特徴などについて質問をしながら購入する様子が見られ、地元農産物をPRする良い機会となりました。

○JAみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会・農業講習会が開催されました！

令和6年10月30日

登米農業改良普及センター



令和6年10月23日に、JAみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会・農業講習会が開催され、部会員4経営体6人が参加しました。

宮城県農業・園芸総合研究所の職員及びJAみやぎ登米の担当者とともに、ほ場を巡回し、生育状況の確認及び今後の管理について指導を行いました。

これまでの生育は順調で、高温の影響が懸念された花芽の出も揃っていました。また、これまでの適切な防除により病害虫の被害はごくわずかにとどまっています。

普及センターでは、今後もイチゴの安定生産を図るため、ほ場の巡回指導を通して適切な栽培管理支援を行ってまいります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○「港町玄米」の収穫が始まりました

令和6年10月2日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼農業改良普及センター管内では、令和5年度に玄米食専用品種「金のいぶき」の生産者6人と関係機関等で構成する「気仙沼金のいぶき協議会」が設立されています。生産者は、貝殻を使った土づくりやプラスチックコーティング肥料の不使用などの基準に基づいて栽培しており、関係者が一体となってブランド化に取り組んでいます。

令和6年産「金のいぶき」の生育は順調であり、令和6年10月2日、生産者の先陣を切って株式会社サンフレッシュ小泉農園で刈取作業が行われ、晴れ渡る晴天のもと、2台のコンバインが忙しく動いていました。

収穫された気仙沼産「金のいぶき」は、今後、「港町玄米」というブランドで道の駅や直売所で販売される予定となっています。

普及センターでは、今後も「金のいぶき」のブランド化を支援していきます。

**○南三陸米図画コンクール表彰式と新米試食会が
開催されました**
令和6年10月21日
気仙沼農業改良普及センター



「南三陸米」は、気仙沼市、南三陸町、登米市津山町で生産された「ひとめぼれ」で、農産物検査で1等に格付けされた品質の良いお米です。この「南三陸米」を題材にした図画コンクールの表彰式と新米試食会が、令和6年10月12日、南三陸米地産地消推進協議会の主催で開催され、入賞者児童15人と保護者、関係者を含め約60人が出席しました。

表彰式では、入賞者一人一人にJA新みやぎ代表理事組合長から賞状と副賞が授与され、入賞者からは誇らしげな表情が伺えました。また、新米試食会では、炊きたての「南三陸米」が地元の食材とともに提供され、入賞者から「甘くてモチモチしている」、「おかわりしたい」、「つやつやしている」といった感想が聞かれ、「南三陸米」の美味しさを味わっていました。

普及センターでは、今後も「南三陸米」の生産振興とブランド化を支援していきます。

○WCS用稲「リーフスター」を収穫しました
令和6年10月23日
大河原農業改良普及センター



令和6年10月13日にWCS用稲の展示ほとして蔵王町で栽培した極晩生品種「リーフスター」の収穫を行いました。

収穫は、デントコーン専用機械を転用し、直径

100cmのロールを成型。その後、別の機械でラッピングを行いました。

9.1 ロール/10aの収穫を得ることができました。

また、坪刈り調査では、総生草重換算で約3,600kg/10aでした。

飼料高騰に対して、自給飼料の増産は喫緊の課題であり、今後もWCSの増産が畜産農家から期待されています。

普及センターでは、関係機関と連携し、更なる単収の増加や自給飼料の生産振興が図られるよう支援してまいります。

**○水稲品種「にじのきらめき」現地検討会が開催
されました**
令和6年10月30日
栗原農業改良普及センター



令和6年10月22日(火)に、高温登熟耐性と耐倒伏性、多収性に優れた水稲品種「にじのきらめき」の現地検討会が「JA新みやぎ栗っこ多収穫米生産部会」の主催で開催され、栽培者や栽培希望者、JA職員等関係者25人が参加しました。

はじめに室内での検討が行われ、JA職員による「にじのきらめき」の品種の特徴の紹介、実際に栽培した生産者からの栽培体験の紹介、卸業者からは、実需での「にじのきらめき」の利用状況や需要の見通しについて説明がありました。

当普及センターでは、「にじのきらめき」作付ほ場を「高温登熟対策技術展示ほ場」として設置していることから、生育調査の結果について、「ひとめぼれ」に比べて、出穂期が2週間程度、成熟期が1か月間程度遅くなり、高温となる期間を避けられていることについて、説明を行いました。

次に、現地ほ場で、刈取直前の「にじのきらめき」の成熟状況の確認を行いました。

参加者は、「にじのきらめき」と「ひとめぼれ」を比べて1か月間ほど成熟期が遅くなる特徴について興味を示し、稲を真剣に見つめていました。

普及センターでは、収穫後に、高温登熟耐性を確認するとともに「にじのきらめき」の収量・品質の向上に向けて支援してまいります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○今年初！色麻町特産えごまの収穫が行われました

令和6年10月1日
大崎農業改良普及センター



令和6年9月24日に今年初めて色麻町特産のえごまの収穫作業が行われました。

色麻町では、従来品種の収穫適期が短く生産拡大の課題となっていたため、今年度から町えごま栽培推進協議会と普及センターで収穫時期の異なる5品種の導入試験を行っています。

この日収穫したのは1品種10aで、草丈が110～120cmと従来品種よりかなり低く、コンバインでの収穫作業が順調に行われ、収量は約53kgとなりました。今後、順次他の品種の収穫を行い、栽培特性や収益性などを調査し、導入の検討をしていく予定です。

普及センターでは、引き続き町の特産物えごまの生産振興を支援していきます。

○酒米サポーターズクラブの稲刈りが行われました

令和6年10月2日
気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市廿一地区では、清流「蔵の華」廿一会（会長：熊谷公兵氏、会員12人）が、酒米「蔵の華」を約7ha栽培し、気仙沼市内の蔵元2社（株式会社男山本店、株式会社角星）に供給しています。

9月28日に、同地区のほ場を会場として、酒米サポーターズクラブ（事務局：気仙沼市産業部農林課）主催の稲刈りが行われました。廿一会の会員や蔵元などに加え、一般の参加も得られ、約40人で、稲刈り鎌による刈り取り、稲わらの結束、はせがけを実践しました。

当日は、好天に恵まれましたが、数日前に降った雨の影響でぬかるんだところもあり、参加者は足元を取られながらも、中山間地域に広がる棚田や山並みなどの風光明媚な景色も楽しみながら、順調に刈り取りを進めました。

両蔵元の共通ブランド銘柄である「福宿（ふくやどり）」は、全量が気仙沼市産の「蔵の華」によるもので、酒販店とも連携して市内限定で販売されるなど、関係機関が一体となった地産地消の取組となっています。

気仙沼市産酒米による新酒は、令和7年2月頃に完成予定ですので、是非御期待ください。

○「なとり・ぐるっと親子講座 稲刈り体験」が開催されました

令和6年10月10日
巨理農業改良普及センター



令和6年10月5日に名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座 稲刈り体験」が開催され、12家族32人の親子が参加しました。巨理農業改良普及センターも運営支援で参加しました。

春に親子で田植した稲が黄金色に実り、子供たちは1株1株丁寧に手刈りしました。刈り取った稲は、保護者が稲わらで束ねました。

また、コンバインによる稲刈り実演見学では、あっという間に稲刈りが終了する様子を見た子供たちから「手刈りよりずっと早いね。かっこいいね。」などの感想が聞かれました。

当日は曇り空でやや肌寒いかと心配されましたが、穏やかな稲刈り日和となり、作業が始まると汗ばむほどでした。

当普及センターでは、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会の活動とともに、管内農産物の魅力発信を支援してまいります。

○「地域計画策定に係る情報交換会」を開催しました
令和6年10月15日
亶理農業改良普及センター



地域計画の策定期限があと半年と迫る中、10月9日、亶理農業改良普及センター管内の2市2町を対象に「地域計画策定に係る情報交換会」を開催しました。

始めに農業振興課から、県内市町村の進捗状況、国の予算概算要求、地域計画と各種補助事業等の連携状況等について情報提供、その後、各市町の取組状況について情報交換を行いました。

各市町では、概ね協議の場を実施して地域計画の策定に取り組んでいるところであり、今後、地域計画の案の説明会、関係者への意見聴取をどのように行うかなどについて意見交換が行われました。

普及センターでは、各市町において地域の実情に即した地域計画が策定されるように支援してまいります。

○栗原市金成有壁地区で稲刈り体験が開催されました
令和6年10月15日
栗原農業改良普及センター



令和6年10月5日（土）に栗原市金成有壁地区で萩野酒造(株)主催の稲刈り体験が開催され、25人が参加しました。

稲刈り体験では、地元の生産者である天水の郷「有壁創生会」の会員が、稲の刈り方や藁を使った結び方の実演を行った後、参加者が稲の手刈り体験を行いました。また、刈った稲束は藁で結び、ねじりほんによ作りを行いました。ねじりほんによとは、刈った稲束を天日乾燥させるため、稲束を杭にらせん状に積み上げたもので、栗原市のマスコットキャラクターにもなっています。

稲刈り体験終了後は、地元の方が用意してくださった料理に舌鼓を打ちながら、萩野酒造(株)を代表する銘柄である「萩の鶴」や「日輪田」などの日本酒10種類のきき酒を行いました。

普及センターでは、今後も有壁地区の地域活性化に向けた支援を行ってまいります。

○色麻町えごま品種比較試験の現地検討を行いました
令和6年10月23日
大崎農業改良普及センター



色麻町内で栽培しているえごまの従来品種は収穫適期が短く、生産拡大の課題となっていたため、今年度から町えごま栽培推進協議会と普及センターでは収穫時期の異なる5品種の導入試験を実施しており、令和6年10月17日に現地検討を行いました。

色麻町のえごまの収穫は、例年10月中下旬に行われていますが、今回試験した5つの品種のうち、1番早い品種で9月下旬に収穫が始まり、現時点で残る3品種の収穫が11月上旬まで順次続く見込みです。

試験ほ場の農業者からは、「従来品種の刈り取り後に続けて収穫できる品種があればよい。草丈が短い方がコンバインの作業性がよい。今回供試している中で有望な品種があれば来年から本格導入したい。」など意欲的な発言がありました。今後、栽培特性や収益性などをまとめ、導入の検討をしていく予定です。

普及センターでは、引き続き町の特産物えごまの生産振興を支援してまいります。

○加美町の若手農業者による地域活性化イベント
「カミヤングイチ」が開催されました
令和6年10月23日
大崎農業改良普及センター



加美町の薬菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与しています。

また、当直売所は加美町で地域おこし協力隊終了後に町内に定住、就農している若手農業者の活動拠点ともなっており、普及センターでは直売所の経営改善とともに若手農業者による地域活性化活動の支援を行っています。

令和6年10月20日には、若手農業者と直売所が共同で地域活性化を目的としたイベント「カミヤングイチ」が開催されました。

当日は若手農業者が生産した農産物、加工品などの販売や豚汁、杵つき餅のおふるまいが行われ、多くの来場者が訪れ、大盛況な1日となりました。

普及センターでは、今後も若手農業者の活動支援を通じて、加美町の活性化に向けた支援を行います。

○地域計画策定に係る関係機関の検討会が開催
されました
令和6年10月25日
気仙沼農業改良普及センター

農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律が施行され、市町村は令和7年3月までに将来の地域農業の姿を描いた「地域計画」を策定することになりました。当管内の気仙沼市では、市内7地区で計画を策定するために、昨年度から各地区ごとに説明会や協議の場が設けられ議論を重ねてきました。

今年度は、7月から9月にかけて、全地区で、昨年度に出た意見をまとめた地域計画の素案等を説明し、計画内容や担い手等の協議を行いました。

今回、関係機関による検討会が開催され、全地区での協議の振り返りや今後の進め方について協議を行い、年度内策定までの工程を確認しました。

また、農地転用の手続きにおいて、地域計画の変更協議が必要になる場合があることについての周知方法も協議しました。今後は、市の広報や行政書士への通知など時期や方法について検討を進めることとしました。

県では、地域計画策定が円滑に進むよう、市町に継続した支援を実施していきます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○秋晴れの下、「グリーンな栽培体系」について紹介しました
令和6年10月29日
登米農業改良普及センター



普及センターでは、プロジェクト課題として、「慣行よりも減肥を行ったベースト二段施肥」と、「非プラスチックコーティングの緩効性肥料栽培」及び「堆肥入り肥料＋流し込み施肥」を設置し、従来の環境保全米から一歩進んだ「グリーンな栽培体系」と、生産者の選択肢拡大に向けた検討・検証を行っています。

去る10月20日、JAみやぎ登米本店を会場に開催された「JAみやぎ登米アグリフェスタ」で、「グリーンな栽培体系」を紹介しました。

会場ではパネル展示とチラシの配布を行いました。パネルを見た来場者からは、減肥の量や非プラスチックコーティング肥料の仕組みなどの質問があり、関心をもっていただいたのではないかと感じました。

今後も様々な機会を通じて「グリーンな栽培体系」の周知を図ってまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.213

発行日:2024年11月29日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp